様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６３４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３８０２１５

研究課題名（和文）地域統合下の格差是正: 概念・規範・制度の基礎的研究

研究課題名（英文）Modification of Inequalities under Regional Integration: Basic Studies on its Concepts, Norms, Institutions

研究代表者
飯沼　健子（IINUMA, Takeko）

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：７０３８４６６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：国家に代わる分析単位として、複数国家間の地域統合が、域内の格差問題の認識及び規範と是正策を形成する過程について、理論的かつ実証的な検証を行った。理論的には欧州連合の先行研究に依拠しながらも、実証面では主にアジアの地域統合の動態を分析した。域内格差の認識は極めて多様であること、域内の政治的なアジェンダによる格差認識の側面が強いこと、その格差認識に依拠して規範と制度がつくられてきたこと等が明らかになった。なかんずく格差とその是正についての共通認識の形成自体が地域ガバナンスでは重要な位置付けにあると言える。

研究成果の概要（英文）：As an alternative analytical unit to replace that of the state, this study examined theoretical and empirical aspects of the process of regional integration, whose discussions encompassed the recognition of inequality issues, the formation of norms (of equality) and the formulation of regional policies within the region. Theoretically, the study drew on the existing literature on the European regional integration, and empirically, the analyses were made mainly on the regional integration dynamics in Asia. Conclusions include the points that the recognitions of inequality issues are fairly diverse,that the recognitions may often derive from political agenda, and that norms and policies were formulated according to such recognitions. The findings above all imply that the formation of common recognition perse on inequalities and its problematization is crucial in regional integration governance.

研究分野：地域計画

キーワード：地域統合　格差　ガバナンス

１．研究開始当初の背景

近現代の社会的公正や格差是正は、国家の枠内で考えられ、その責任は一義的に国家に委ねられてきた。不平等を問題視し、その課題に取り組むか否かの判断も国家内の要因により規定されてきた。

これに対して 20 世紀後半以降数を増した地域統合では、複数国家からなる地域共同体の枠内で不平等を取り上げる動きが見られるようになった。21 世紀に入っても更に進む地域共同体の形成に伴い、格差是正は益々重要な関心事となっていった。

地域統合の初期の研究者であるベラ・バラッサは地域統合下の経済的厚生を考える上で、「効率性」と「公平性」に着目し、「効率性」は実質所得に表され、「公平性」は所得再分配に表されるとした（Balassa, Bela. *The Theory of Economic Integration*. Homewood, IL: Richard D. Irwin, 1961）。地域統合では市場統合が最も大きなインセンティブであるため、地域統合の「効率性」、つまり地域共同体の創出により競争力を向上させ、実質所得の増加につなげることが長い間主要テーマであった（Viner, Jacob. *The Customs Union Issue*. New York: Carnegie Endowment for International Peace, 1950. Schiff, Maurice and L. Alan Winters. *Regional Integration and Development*. Washington, D.C.: World Bank and Oxford University Press, 2003.）。この立ち位置からの「公平性」の捉え方は、「効率性」の向上が最終的には共同体構成員全体の厚生につながるというものに留まる。

もう一方で、実際の地域統合過程では、「公平性」の理念が地域共同体の創設において唱えられ、格差是正に取り組む側面も見られる。一国内で捉えられてきた格差は（国内の）地域格差や社会層間格差であり、地域統合下の格差認識が先ずは国家間格差であることからすると、両者は全く異なるようにも見える。しかし、欧州連合（EU）の構造政策、結束政策に見られるように、国家間だけでなく、国境地域、農村地域、低所得地域など、各国内の特定地域をも対象に格差是正が行われてきた。こうして地域統合下の格差認識が国家内の格差をも包含することが現実として起きるようになった。更に、「効率性」向上の行い方次第である程度の「公平性」を確保することもできる。

域内格差の是正で先行する EU の政策に関する研究は増えているものの、地域統合が格差是正に対して国家枠組みよりも親和性があるかどうかという根本的な問題提起はなされてこなかった。こうした問いに答えるべく、本研究は地域統合と格差是正の関係の検証を行うものである。

２．研究の目的

本研究は地域統合下でなされる格差是正について、その概念と制度を明らかにすることを目的とした。新たな格差是正の分析単位の可能性を持つものとして地域統合を取り上げ、地域統合で格差の問題が、（１）何をもって格差と認識され（格差の概念形成）、（２）その是正を共同体の課題とするにあたり、どのような規範がつくられ（規範化）、（３）どのように是正策を講ずるのか（政策化、制度化）、を明らかにしようとした。これらを「効率性」と「公平性」の視点から整理し、地域統合における格差の問題の捉え方とその対応を浮き彫りにしようとした。

理論的には地域経済統合を扱う経済研究と、国家間研究を扱う政治学・国際関係論の視点を組み合わせてその交差する分野を模索した。研究の主な部分となる実証面では、地域統合の動態を格差是正という視点から具体的に捉えることで、地域統合のメカニズムの解明に寄与する試みである。

更に国家間の域内格差にとどまらず、地域共同体が他の種類の格差是正、従来の国家領域内の格差是正、たとえば社会階級・ジェンダー・エスニシティ間等の格差についても責任範囲を延ばしていること、そこから見えてくる地域統合の特徴についても示唆を得るものである。

３．研究の方法

地域統合と格差是正の関係、つまり複数国家にまたがる地域が国内の格差是正を左右し得るか否かを問い、その動態を捉えるには、経済統合を扱う経済研究と、国家間研究を扱う政治学・国際関係論の視点を組み合わせた学際的アプローチである必要がある。またこうした傾向が地域統合の普遍性に由来するものか、地域の特殊性から来るものかを見極めるためには、EU のみの事例では十分ではなく、他の地域統合とも比較することが必要となる。

理論的分析は、地域統合研究で先行する EU に関する研究に主に依拠した。経済研究と政治学・国際開発論のそれぞれの分野で欧州の地域統合について議論した先行研究にあたった。

実証的な把握については、EU 以外の地域統合の状況を把握すべく、比較することが必要となる。こうした問題意識に基づき、本研究ではアジアで最も急速に地域共同体づくりを進める東南アジア諸国連合（ASEAN）を中心に実態についての情報収集を行った。また、発展途上国の諸地域における経済統合と政治・社会状況の傾向を質的・量的側面から参照した。これらの情報収集では、地域統合体・国際機関・各国の資料調査の他、地域統合体と各国行政機関、市民社会、国際機関などの関係者・有識者より聞き取りを行った。この他、地域統合研究を行う海外の研究者との学術交流・意見交換を取り入れた。

４．研究成果

地域統合の動態を格差是正という視点から捉えるにあたり、「効率性」と「公平性」との関係で実際の格差是正の認識・規範・制度を検証した。また、地域統合に近年参入した諸国、特に ASEAN のカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム（以下、CLMV）に関する格差問題の捉え方を地域統合の重層的な枠組みにおいて検証した。

先ず、地域統合における「公平性」の認識と規範および対応として、代表的なものである国家間格差の是正について ASEAN の地域統合で検証を行った。そこでは地域統合下の「公平性」確保の動きよりも、CLMV への（国家間の）国際援助枠組みによるものが、先行してきた。更に進んだレベルでの「公平性」すなわち国家内の格差是正は発展途上国の場合、格差是正というよりも貧困削減として提唱され、ミレニアム開発目標をはじめとする国際的な貧困削減アジェンダを支援する形で位置づけられた。国家間協力・国際協力のインセンティブに加えて、地域統合を背景にしてより CLMV への支援が正当化され推進されている側面もあった。しかし、実際には主要援助国は殆どが域外の国々であり、ASEAN が域内格差の是正を提唱することとは対照的に、格差是正に繋がる実際の協力や援助規模は大きなものではなく、実質的な格差軽減への寄与は重要視されていない。格差とその是正についての共通認識の形成自体が地域ガバナンスでは重要な位置付けにあると言える。こうした点を国際学会発表①として報告した。

次に、「効率性」と「公平性」が重なる面についての検証として、地域統合の新たな動態のうち国境を越えた連結性の創造に関して、国家の枠組みでは「周辺化」されてきた国境地域が「脱周辺化」する可能性を、東南アジア大陸部の実態に基づき検証した。これまで「周辺化」されていた各国の国境地域は、インフラ整備や関税障壁の撤廃などによる地域統合の経済的効果を期待している。地域統合理論の一部では国境地域が発展の機会を得るとしているが、国境地域において、国境障壁の軽減は国家内の「周辺」を「脱周辺化」させるとは限らないことが明らかになった。地域統合の「効率性」を促進することは、地域内の「周辺」および国家内の「周辺」にとっても「公平性」に繋がる側面があるにも関わらず、こうした格差是正は、少なくとも国境地域の動態を見る限りでは、起こっておらず、格差是正の規範は、「効率性」の主要主体である民間企業の活動と結び付けて認識されてはいないことなどが明らかになった。研究会報告を経て雑誌論文①として掲載された。

更に欧州の地域統合の理論研究と実証研究についての意見交換と学術交流を通して、欧州連合の設立と進行する地域統合により域内動態の変化が対外関係に影響を及ぼした側面に光をあて、一方が地域統合下にある場合の関係性の変容について考察を行った。特に貿易交渉を各国別に行っていた統合前に対して、統合後「効率性」向上の下での一元化から来る影響、及び地域共同体内の理念化の役割を明らかにした。フランスのエクス・マルセイユ大学が共催する夏期大学の地域統合についての公開シンポジウムに招聘され講演を行い、参加者の研究者、大学院生、一般参加者らに成果を報告し意見交換を行った（学会発表②）。また、同大学から出版された叢書に同様のテーマで分担章を執筆した（図書②）。

この他、「効率性」と「公平性」の向上に向けて、ASEAN から制度改革や法整備が求められる段階にある地域統合体の後進国の視点から、ラオスの民間部門のための人材育成を統合過程にある地域との関連で検証した（図書①）。人材育成の国家間格差是正は既存の国家間国際協力が主体となっているが、国内格差是正には地域統合体からの関与は大きいとは言えない。地域統合で先ず主要価値となる貿易自由化や民間投資・民間部門の促進が、人材育成と域内の「効率性」「公平性」にどう現れ得るかについて示唆を得た。

総じて、国家に代わる新たな分析単位として地域統合を捉え、地域統合が域内の格差問題をどう認識し、これに関してどの様な規範がつくられ、どの様な是正策を講ずるかについて、特に ASEAN 内の動態の多様な側面を明らかにした。域内格差の認識は単一ではないこと、域内の政治的なアジェンダによる格差認識の側面が強いこと、その格差認識に依拠して規範と制度がつくられてきたこと等が明らかになった。なかんずく格差とその是正についての共通認識の形成自体が地域ガバナンスでは重要な位置付けにある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2 件）

① <u>飯沼健子</u>「地域統合下のタイ・ラオス・ベトナム国境地域の連結性」『専修大学社会科学研究所月報』査読無、642・643 号、2017 年、26-41 頁。

② <u>Iinuma, Takeko</u>. “Civicness in Question: the Case of Women’s Activities in Rural Vietnam.”『専修大学社会科学研究所月報』査読無、624 号、2015 年、19-37 頁。

〔学会発表〕（計　3 件）

① <u>Iinuma, Takeko</u>. ”Development Cooperation for CLMV: Regional

Integration and the Pursuit of Equitable Development." Conference on Social Well-being in the Context of Regional Integration: Searching for a Joint ASEAN Model, Vietnam Academy of Social Sciences, Hanoi, Vietnam, October 13, 2017.

② Iinuma, Takeko. « Les relations économiques, politiques et culturelles entre l'Union européenne et le Japon. » Universités internationales d' Été du Mercantour, Mercantour, France, September 7, 2017.

③Iinuma, Takeko. "Social Well-being in Japan, Korea, and Vietnam: a Gender Perspective." Conference on International Consortium for Social Well-being Studies, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, March 9, 2017.

〔図書〕（計　2 件）

①飯沼健子「ラオスにおける民間部門のための人材育成」内野明編『メコン地域におけるビジネス教育』白桃書房、2018 年、217-238 頁。

② Iinuma, Takeko. « Les relations économiques, politiques et culturelles entre l'Union européenne et le Japon. » Jacques Bourrinet, ed. *Les Frontière extérieures de l'Union européenne : Contrôle des Échanges / stratégie international de l'Union*. Mercantour: Universités internationales d' Été du Mercantour, 2017, 155-160.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
飯沼　健子（IINUMA Takeko）
専修大学・経済学部・教授
研究者番号：70384667

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）